



士別ロータリークラブ会報

創立 1960・3・24 RI第 2500 地区

Vol. 27 No. 2802

2022-2023年度国際ロータリーのテーマ

2022-2023年度R I会長 ジェニファーE.ジョーンズ

R I ホームページ <https://www.rotary.org>

第2890回例会 2023年 2月 27日

今日のプログラム

・夜間例会

前回（2月13日）の記録

・普通例会

司 会 神田英一 会場監督
斉 唱 我らの生業

本 日 の 出 席 会員 43人中 出席者 28人 出席率 65.12%

本 日 の 欠 席 横本實男・大江智宣・菊地昭通・國森和磨・近藤峯世・鈴木勉・田中洋和
田中道也・谷温恵・藤吉敏博・前田孝幸・水田孝志・山口哲雄・山下卓己
山本政史

メークアップ
ビ ジ タ 一
ゲ ス ト
ニコニコBOX 中山義隆（誕生日祝い）

累計 212,000円

例会予定

■2月例会日 [平和構築と紛争予防月間]

- 2月 6日(月) 普通例会・理事会
- 2月13日(月) 普通例会
- 2月20日(月) 早朝例会
- 2月27日(月) 夜間例会

■3月例会日 [水と衛生月間]

- 3月 6日(月) 普通例会・理事会
- 3月13日(月) 普通例会
- 3月20日(月) 普通例会
- 3月27日(月) 夜間例会 ファミリーパーティ

■会務報告……………細川 博司会長

皆さんこんにちは

今日は抜萃のつづりその八十一の123ページ「いつも笑顔で」須磨佳津江さんのエッセーを発表いたします。聞いて下さい。

コロナ感染予防に必須のマスク。マスクの影響で表情を失い、顔の筋肉が落ちると聞き愕然としました。

確かに、人と会わない日で笑う機会が減っています。

笑顔は顔の筋肉運動ですし、マスクのせいで顔の老化が進んでしまうのでしょうか。

とはいえた無意味に笑うのも変だし…そうだ！アナウンサーの基本訓練アエイウエオアオとはっきりと発音する滑舌練習で顔の筋肉を鍛えよう！と思いました。

我ながら名案です！その効果は滑舌は放送を聴いていただかなければなりませんが、老化防止以上にコロナが収まった後に表情のない人になっていたくない！と思ったのが正直なところです。

私のモットーは「いつも笑顔で」“楽しいから笑うのではない、笑わないから楽しくなのだ”という言葉に感銘を受けて以来意識して笑顔を心掛けてきました。

笑顔で挨拶すれば笑顔が返ってきますし、辛い時でも「わ～私こんな体験をしている…物語の主人公みたいだわ！」と笑ってしまえば気持ちが楽になるもの。

笑顔って幸せを呼ぶ力があるなあと感じています。亡くなる瞬間まで笑顔でいたい、北海道の紫竹ガーデンの名物おばあちゃん紫竹昭葉さんです。

94才の誕生日をお祝いして元気だったのですが5月4日いつものように雀にやるパンと花の種を持って花咲く庭に出て、そのまま眠るように息を引き取られたとか。“花畠で人生を終えるのが夢なの、亡くなても悲しまないでね”と長女に語っていたそうです。「毎日お洒落をして幸せそうに笑っていた母は最後まで母らしかった。すごいですね」と話されました。今も「大丈夫、きっといいことがあるわ」と見守ってくれている気がしています。笑顔は自分を幸せにするだけでなくまわりの人を幸せにするからを持っているのではないでしょか！皆さんもう少し笑顔で楽しく学習してまいりましょう。

■幹事報告……………大橋 直幸幹事

1.先週6日の理事会で決議された案件をご報告致します。

活動計画書46ページに記載されております終身会員規約 第2条 資格の部分の変更と追記された文章を紹介致します。

●第2条・第1項

【終身会員の資格は、会員年齢時が満73歳以上の会員でロータリークラブの在籍年数と併せて100年以上であり、理事会の承認と総会又は例会報告を以て資格を取得するものとする。

但し、本人または配偶者か親族(1親等の親族)の同意を必要とする。】と記載されてありますが第2項を追記致しましたので読み上げます。

●終身会員規約 第2条・第2項

【前項の規定にかかわらず、本人が終身会員となることを希望し、理事会がロータリークラブでの功績及び実績等を勘案し、終身会員にふさわしいと承認した場合については、総会又は例会報告を以て資格を取得するものとする】

という文言が新たに加わりました。

よってこの新たな規約の改正により、本山忠之会員においては今後、終身会員として土別ロータリークラブに籍を残すこととなりましたことをこの場でご報告とさせて頂きます。

2. 来週20日の例会は 早朝例会となっておりますのでお間違えのないようお願い致します

3. 5月20日に開催されます、第69回ライオンズクラブ331B地区年次大会の案内が細川会長充てに届いておりますのでご報告とさせて頂きます。

4. 名寄ロータリークラブ様より2月と3月の例会の案内と会報が届いておりますので回覧ファイルよりご自由にご覧下さい。

■会員卓話……中山 義隆会員

私の農業

1959年2月25日午前3時頃、さんばさんの手によって、この世に生まれてきました。

幼少期の頃は、幼稚園も行けず、田植えのときは、祖母と苗引きや、温床の水やり、馬やニワトリの草刈りえさやり、小学生低学年より家族の病院の入退院、おふくろは、付添そんな中、無理をしながら父の出稼ぎ、春は父が土木工事の仕事に行く朝、耕運機で田んぼ起し、バトンタッチして6時から学校に行くまで田んぼ耕し、また学校から帰つてから朝の続きや、代搔き、祖父は、分家で面積は3ha(1反2反の水田60枚余り)しかなかった、祖父は自分が4歳の時亡くなった。

昭和45年からの基盤整備で1枚の水田が45a(4反5セ)に整備され、トラクターや歩行型田植え機が導入された(1970年)

耕運機からトラクター、手での田植えから田植え機と近代的農業になる中、幼少期のころは仕方なく手伝いだったが中学のころは近代的農業に魅力を感じるように変わり。夢を描く様になり、農業について詳しく知りたく拓大の2部(11月～3月)3年間通い、基本を学び、土づくり、有機栽培を目標に学んだ。卒業後拓大ゼミの先生より古代米を紹介され、研究、栽培、販売までやり、古代米は今では拓大の北のむらさきと名前を変えて深川の道の駅で販売されている。

昔は水稻技術も品種も進んでおらず昭和58年凶作で農業の持続も考える時だった、平成4年5年頃も凶作とは言わぬが収量不足が2年続き、仲間たちで有機栽培を掲げ、米工房と名を付けて、消費者に直接販売をするグループを作り、その後独立

平成8年ごろより、21世紀農業を目指して、中士別地区道営基盤整備事業に力を入れて、その後上士別国営農地再編整備事業を立上げ、北海道でも数少ない大型水田圃場を作り現在でも土づくりを基本に、有機栽培の米作りや、有機酒米作り、米ドン(おこし)、イソフラボン菓子(青大豆、茶大豆、青大豆)を手掛け家族で頑張っています。また、農家人口減少を考え3年前より地域おこし協力隊制度を活用し士別市に根づく、農業者を育てています。

また、土づくり有機栽培に力を入れて、捨てコンク

リートを活用して、2か所の堆肥盤を、自作で作り面積約3反位の堆肥盤はなかなかありません。今後、更に土別を盛り上げる農業に力を入れていきたいと思います。

結婚祝いおめでとうございます！



(深尾幸夫会員)